

千年の森便り No.173

2017.12. 13

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

12月3日(日) 晴れ

島へ入る前、吊り橋から見える湖面に薄い霧がかかって、紅葉を映していたのは幻想的な風景でした。日中は風もなく穏やかに晴れて、青空をバックに見上げる紅葉も見事でした。カエデ類の紅葉に加えてアカシデ、ネジキ、ヤマボウシなども色付いて妍を競っていました。コナラは既に落葉が進んでいて残念でしたが、降り積もった落ち葉を踏みしめて歩くのも風情がありました。落ち葉の上に寝転んで、すっかり童心に帰っている人もいました。

当日、都合が悪く参加できなかった人はこの便りで森の香りと彩を感じ取って下さい。(坂本)

参加会員は伊藤、鶴沢、及川、久我夫妻、坂本、成沢、福島、松田の9名でした。朝いちばん全員で二ホンジカの生息状況調査、続いて巨木林の成長調査を行いました。午後はホテイ岬の整備などを行いました。(成沢)



紅葉を背に集合写真



見上げれば紅葉と青空



霞むダム湖



アカシデ



ネジキ



ヤマボウシ



小さくても紅葉



彩鮮やか



リラ〜ックス

○ニホンジカ生息状況調査

今日の最初の活動として、シカの生息状況調査を行いました。3か月ごとに年4回実施している調査の3回目になります。島内を7コースに分けて同時に踏査し、発見したシカをカウントし生息状況を明らかにする調査です。調査時間は10時から10時半、島内の2カ所で比較的新しいシカのフンが見つかりましたがシカの発見はありませんでした。しかし、調査終了後に、吊り橋付近でシカ1頭（雌雄不明）の目撃があったことから、調査の時間帯は島内のどこかに隠れていたと考えられます。

～おまけ～

調査中に、ホテイ岬の北側斜面で種子をつけているミヤマウズラを見つけました。（福島）



ミヤマウズラ

○巨木林成長調査

シカの調査のあと、巨木林エリアの植生保護柵で囲まれた20m×20mの調査地で樹木の成長調査を行いました。この調査は、2008年12月から毎年この時期に行っており、今回が10回目の調査になります。今回のデータはこれから集計しますが、前回の2016年までの調査で、調査本数が70本から62本に減少したものの、蓄積は7.3m³から9.1m³に24%増加していることがわかりました。2016年時のヘクタールあたり蓄積は227m³、成長は、モミ、コナラ、サクラ類の直径が大きいものほど大きい傾向にあり、直径が小さいものはほとんど成長していませんでした。（福島）



胸高直径を測定中～

○マダケ・ホテイチク混合竹林の残渣整理

先月除伐を行ったマダケ・ホテイチク混合竹林の残渣の整理を行いました。

<参加者>

坂本、伊藤、福島、成沢、及川（敬称略）

私の習った園芸的な手法とは異なっており、戸惑いがありました。ちなみに、園芸的作法は以下の通りです。よろしければ、参考にしてください。

(1)タケはなるべく根際に近いところで節止めする

- ・節のすぐ上で切るのは節の上の稈に雨水が溜まり蚊の発生源となるのを防ぐため。
- ・根際に節に平行に切るのは、中途半端な稈を残したり、切り口に角度をつけると、躓いたり／転んだ時に踏み抜いたり／体に刺さって大きなけがをすることを防ぐため。

(2)稈と枝葉は分けて積む

- ・枝葉をつけたままの稈を積むと嵩ばかり高くなり、見苦しい。



稈と枝葉は分けましょうね♪

- ・稈と枝葉は腐食にかかる時間が大きく異なるため、別々に分けて積む。
- ・タケを切る時間より後の処理により多くの時間がかかりますが、そこまでやって作業が完結するのだと最初に教わります。(及川)

○キノコ観察

寒い冬に向かってキノコの発生は更に少なくなってきました。

冬のキノコと言われる、ヒラタケは発見できませんでした。

観察したキノコは、次の通りです。

エノキタケ・・・傘の上表面や、柄の表面にもやや毛羽だった様子がみられること

ニガクリタケ・・・古くなったヒラタケのホダ木を借りて発生した、お呼びでないキノコです。

マメザヤタケ・・・豊英島ではおそらく観察記録が無い、子囊菌門のニクザキン科のキノコです。さらにニョキニョキ伸びて、不快臭がします。

シイタケは、手のひら大2個、親指大が4個採れました。

冬期間きのこも少なくなっていて、きのこ講習師は失職しました。(松田)



エノキタケ



ニガクリタケ



マメザヤタケ

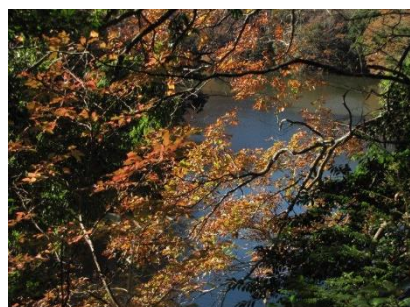
○野鳥の記録(出現順)

オオバン 1 ヤマガラ声 エナガ声 シジュウカラ声 メジロ声 ハシブトガラス声 ハシボソガラス声 ヒヨドリ声 ウグイス声(地鳴) カワセミ声 コゲラ声 トビ1+声 オシドリ 20±以上 13種

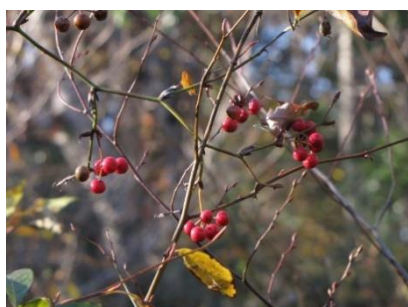
禁断岬のヒメコマツ植栽地方向からオシドリの声が聞こえていたので姿を探しましたが、その時は見つけれず、帰り際に福島さんの「鴨だ！」の聲に振り向くと樹間越しに飛んで行く群れが見えました。潜んでいた場所にバス釣りのボートが近付いたのだと思います。

センサーカメラの画像はありませんでした。(坂本)

○島内の景色をお届けします。



コナラ黄葉



サルトリイバラ



紅葉①



紅葉②



対岸の紅葉



紅葉③ (撮影:福島)

○地元農家の苦労話（聞き取り）

今年は吊り橋手前の水田が耕作されていなかったのを皆さんも気づいていたと思います。駐車台数が多い時、獣よけの囲いを開けて使わせてもらっている場所です。

その地主さんが周辺の草刈をしていましたので、日頃のお礼を兼ねて挨拶と世間話をしました。

高齢の為、稲作を断念したものの、荒れ果てるのを見るに忍びなく草刈だけをしていると言っていました。地主さんの居住集落と田んぼはどちらも山の中腹で直接見通せますが、間に小糸川があり両脇は切り立った断崖です。ダムが出来てからは堰堤を通して車で簡単に来られるようになりましたが、その以前は急な坂道を下って一旦川まで降り、更に今度は急坂を上って田んぼに通ったそうです。

エレベーターの無いビルの10階を歩いて上り下りするのと同程度の高低差になると思います。荷物が無ければ何とかありますが、特に収穫した粃を背負っての上り下りは重労働だったでしょう。先の大震災でエレベーターと水道が止まったマンションの上層階に給水ポリタンクを運んだ人なら苦労が痛いほど分ると思います。豊英島の周囲湖底も川廻しの水田だったと聞いていますが、人力での流路変更工事に加え水田の造成から収穫物を集落まで運び上げるまで、諸々の苦労も並大抵では無かったと思います。この話は千年の森活動と直接関係ありませんが、地元の歴史と生活の一端を理解するのも大切と思います。（坂本）

お知らせ

○新年会のお知らせ

日時；1月26日（金）17:30～20:30

会場；日本海・千葉駅前店（Tel043-224-7799）奥の個室（定員15名）

会費；4,000円（飲み放題、料理はお任せ）申込み；久我哲也さん（0436-36-5922）まで

○1月の活動（予定）

ギャップ林の整備方針検討一部整備、ホテイ岬整備、植物、野鳥、昆虫調査、その他